編集後記

ここに無事に『年報』第38号を刊行できたことをうれしく思います。

本年度は新しい運営体制の下，経験不足ながらなんとか本号を刊行する運びになったことでとりあえず安堵しております。ここでまず，本号の編集経緯を簡単に記しておきます。

例年のごとく，昨年5月に執筆希望を募ったところ，論文19編，研究ノート1編の申し込みがなされた。その結果，10月21日の原稿締切日までに6編が提出され，8人の方が執筆を辞退された，その後10月末日までに6編が提出され，3人の方が辞退され，全体で9件（論文8件，研究ノート1件）の形で編集する運びとなった。特に，今回は投稿希望が多かったために，編集担当の判断で執筆希望者全員に対して，半ば強制的に予定枚数の2割減をお願いしたことを申し訳なく思います。また，社研叢書の刊行の中で，上梓されている2冊について，本号においてそれらの書評を掲載したいと考えておりましたが，短期間での書評依頼のこともあって，掲載ができなかったことをお詫びするとともに，編集担当として反省しております。本号も含め，一連の編集作業は竹内さんの協力の下で順調に進めることができましたが，残念ながら，常識の範囲を超えた「直し」や「加筆」の原稿が見られました。次回からは何らかの対策を講じる必要があるのではないかと思います。特に，印刷会社泣かせとなるような「直し」は，各所員ともども肝に銘じてほしいと思います。内規改訂に当り，『年報』の原稿料について12月総会にて承認されましたが，実行は来年度からとなりますのでご了承ください。本年度は，社研の研究会担当の仕事など精力的に運営に係わってくれた野口眞所員が急逝されたことは，まことに残念でなりません。心から故野口所員のご冥福をお祈りする次第です。合掌。

本年度は，初めて編集担当の責任者として大役を仰せつかり，不安なまま作業をしてまいりましたが，柴田所員や村上事務局長には過大なご協力をいただき心強い限りでした。

さらに，『年報』のみならず『月報』の編集業務全般にわたって，社研嘱託の竹内佐和子さんには大変お世話になりました。正直のところ，竹内さんのいない来年度の編集作業にいささか不安を感じるのは私だけではないでしょう。竹内さんには本当に長いことご苦労様でした。最後になりましたが，今回もまた編集作業を進める中で，公人社の大出明知氏にも何かとご無理をお願いし大変お世話になり，心から御礼申し上げます。

（前田　和實）